

富山農林振興センター普及情報

第92号(令和8年2月)



HP アドレス <http://www.pref.toyama.jp/sangyou/nourinsuisan/nourinshinkou/index.html>

二次元コード

富山農林振興センター諏訪川原庁舎 〒930-0088 富山市諏訪川原 1-3-22

TEL : 企画振興課 444-4475(総合庁舎内) 担い手支援課 444-4521 , 444-4523

農業普及課 444-8117 , 444-8125 , 444-0410 , 444-0413

FAX : 企画振興課 444-4518 担い手支援課・農業普及課 444-4516



呉羽梨トレーニングファームでの着果管理実習の様子 (P 4に本文)

目 次

- 暑い夏への備えは、春の栽培管理が重要 2 ページ
- 令和8年産大豆、まずは「基本技術の再確認」を 3 ページ
- 環境直接支払交付金の受給にはとやまみどり認定が必須に！ 3 ページ
- 体系的な研修プログラム「呉羽梨基礎講座」の紹介 4 ページ
- 農業が生み出すチカラに見せられて～新規就農者紹介⑥～ 5 ページ
- 農家のこだわり専門店、応援します！～新規開店⑩～ 5 ページ
- トラクターの運転にはシートベルト着用が義務化に！ 6 ページ
- 秋にクマが出てからでは遅い！！春になって雪が溶けたら、
野生動物の隠れ場所やエサ場をなくそう！ 7 ページ

暑い夏への備えは、春の栽培管理が重要

近年の稲の登熟期間は酷暑とも言える夏が続いています。今後もこのような夏が想定されることから、高温でも登熟の良い稲づくりを目指しましょう。そのためには、①穂数を増やすこと、②穂揃期の葉色を濃くすることが重要です。

1 穂数の確保に向けて

穂数を多くするためには、若くてがっちりとした苗を作り、初期生育を旺盛にすることが重要ですので、次のことに留意しましょう。

【育苗】

○育苗日数は長くないように

5/15 植えて育苗日数は 19 日以内とし、長くなりすぎないように計画しましょう。

○こまめな換気

育苗ハウスの温度は高くなりやすいので、こまめに換気しましょう。

田植予定日	浸種開始	播種日	育苗日数
5/10	4/8	4/19	21日
5/15	4/17	4/26	19日
5/20	4/25	5/3	17日

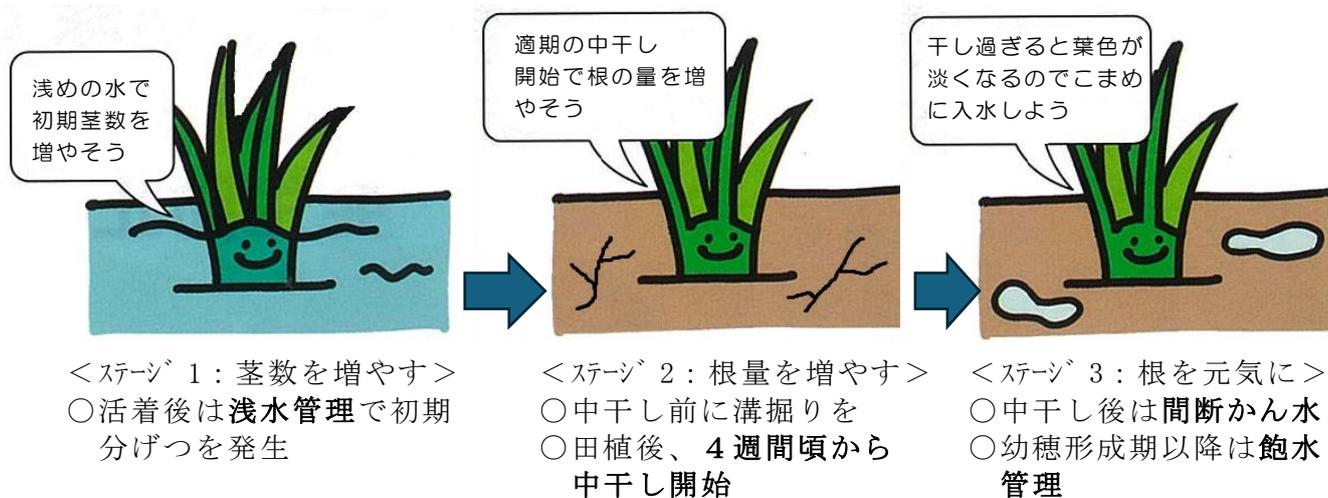
【田植作業】

○こまめに田植機を調整

作業前に栽植株数 70 株/坪を確認。

作業中は植付本数 4 本、植付深さ 3 cm を確認。

【生育ステージに合わせた水管理】



2 穂揃期の葉色を濃くするために

幼穂形成期～出穂期までの間に稲の葉色が濃くならない場合は、飽水管理を確実に実施するとともに、積極的に追加穂肥を施用しましょう。

【追加穂肥診断の目安】

区分	出穂 7 日前
壤土、埴壤土 洪積土	葉色 4.0 以下 (SPAD 値 32)
砂壤土	葉色 4.2 以下 (SPAD 値 34)

出穂 3 日前までに
追加穂肥を施用

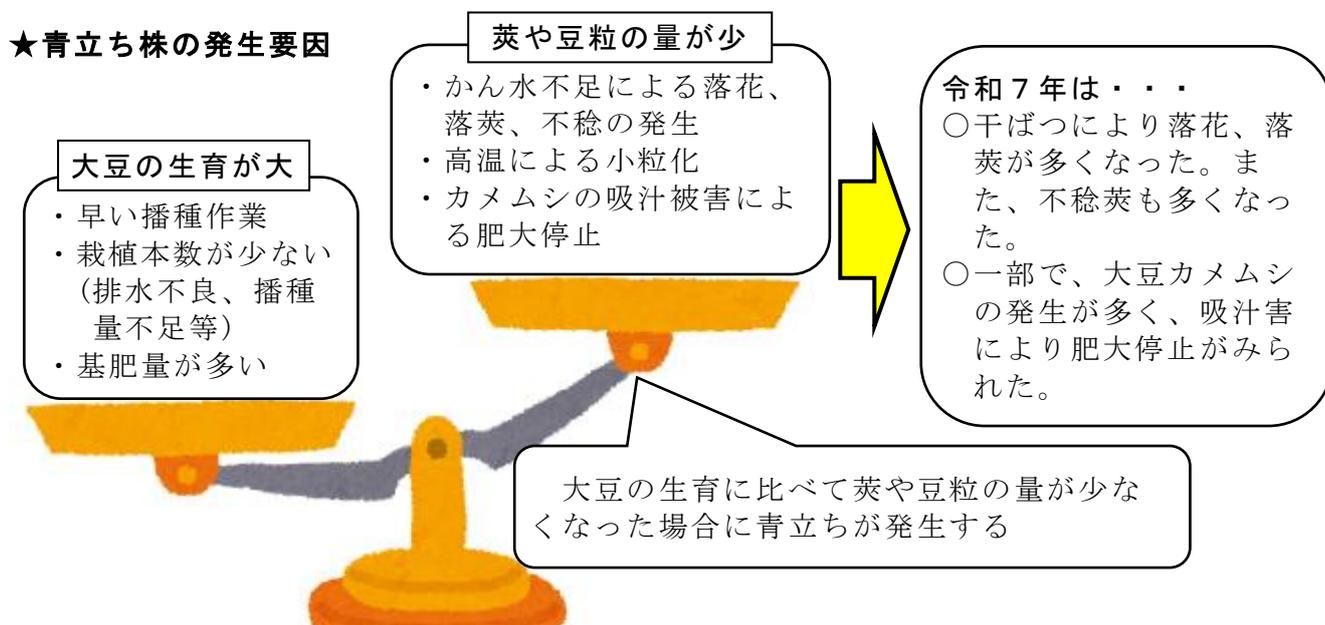
目標：穂揃期
葉色 4.2～4.5 (SPAD 値 32～35)
葉色 4.5 (SPAD 値 35)

(農業普及課)

令和8年産大豆、まずは「基本技術の再確認」を

令和7年産大豆は、開花期以降の高温の影響で成熟期の遅れや青立ち株が多発し、収量及び品質が大きく低下しました。令和8年以降も高温が予想されますので、これまで以上に基本技術を実践することが重要です。

★青立ち株の発生要因



【令和8年産のポイント】

- ・播種前の排水対策 → 早い時期に排水溝を設置してほ場を乾かす
- ・適正な播種 → 播種早限は6月上旬
- ・適正な基肥量 → 土壌条件に応じた基肥量を施用
- ・的確な雑草防除 → 適期に効果の高い除草剤を散布
- ・開花期以降の畦間かん水の実施 → 降雨に頼らず積極的に実施
- ・適期の病害虫防除 → 2回の基本防除を徹底、カメムシが多い場合は追加防除も

(農業普及課)

環境直接支払交付金の受給にはとやまみどり認定が必須に！

現在、令和9年度を目標に、食料・農業・農村基本計画に基づき、現行の環境保全型農業直接支払制度が見直され、新たな「環境直接支払交付金」への移行が進められています。この新しい制度の大きな変更点として、「みどりの食料システム法」に基づく計画認定、通称「とやまみどり認定」の取得が支援の必須要件となります。

現行の交付金を受給されている皆様が、引き続き新たな環境直接支払交付金を受け取るためには、「とやまみどり認定」の取得が不可欠です。これまで対象が「農業者の組織する団体」であったものが、今後は「とやまみどり認定を受けた農業者個人」にも広がり、個人で有機農業に取り組む方も要件を満たせば支援の対象となります。

スムーズな制度移行と、将来にわたる持続的な農業経営のためにも、ぜひこの機会に「とやまみどり認定」を取得し、新たな環境直接支払交付金を活用して、環境に配慮した農業をさらに推進していきましょう。

(担い手支援課 経営支援班)



体系的な研修プログラム「呉羽梨基礎講座」の紹介

呉羽梨産地では、産地の維持・発展のため新規担い手の育成・確保に取り組んでおり、その概要・成果について「富山農林振興センター普及情報」第90号（令和7年2月）にてご紹介しました。呉羽梨産地では、次のステップとして、新規担い手の早期技術習得を支援する体系的な研修プログラム「呉羽梨基礎講座」を創設しましたので、ご紹介します。

1 「呉羽梨基礎講座」の概要

【主催】呉羽地区果樹組合連合会

【内容】基本知識・栽培技術に関する座学・「トレーニングファーム」での実習
（表1、3ヵ年の繰り返し研修）

表1 「呉羽梨基礎講座」の講座一覧

回	時期	内容		回	時期	内容	
1	3下	(開講式) 年間作業、樹の構成と各部位の名称	座学	11	10下	せん定(成木・幼木)	実習
				12	11中	園地巡回(せん定確認)	実習
2	4上	結実管理(摘蕾、人工授粉)	座学・実習	13	11下	落葉処理(黒星病対策)	座学・実習
3	4中	病害虫の種類と対策・農薬散布方法	座学・実習	14	12上	病害虫対策、次年度防除暦の解説	座学
4	4下	着果管理(予備摘果)	実習	15	12中	開園準備、定植、幼木管理、凍害対策	座学・実習
5	5下	芽かき・摘心	実習	16	1中	農業簿記、税務申告(eTAX)	座学
6	6中	着果管理(仕上げ摘果)、夏季せん定	実習	17	1下	誘引・棚付け、花芽整理	実習
7	7上	先進地視察	視察研修	18	2下	カイガラムシ類対策・落葉処理見直し	座学・実習
8	7中	園地巡回、新梢管理、かん水	座学・実習	19	3中	接木、鳥害対策(黒ワイヤ)、防霜対策 (閉講式)	座学・実習
9	7下	土壌分析結果に基づく施肥設計	実習				
10	8上	収穫、選別	座学				

【講師】呉羽地区果樹組合連合会役員(先進農家)、県担当者(農林振興センター、広域普及指導センター、果樹研究センター)、JA営農指導員、外部講師等

【対象者】①連合会に加盟する就農3年未満の者、②連合会加盟農家の子弟等で3年以内に就農予定の者、③産地外からの就農予定者で就農後に連合会への加盟する者

【研修ほ場】新規就農者が継承予定の成木園(5a)をトレーニングファームとして活用
トレーニングファームでは、受講生2人組で1樹を年間通じて実習・管理し、技術習得する。

2 活動の様子(写真1~3)

「呉羽梨基礎講座」は、令和7年3月に開講し、1期生として26名が受講しています。座学や実習を通して基本的な知識や栽培技術を学ぶとともに、受講生同士の情報交換や交流が活発に行われており、仲間づくりの場としての役割も果たしています。



写真1 座学の様子



写真2 当センター職員による実技講習



写真3 先進農家による防除の実演
(担い手支援課 園芸振興班)

農業が生み出すチカラに魅せられて ～新規就農者紹介⑥～

あぐもぐ (株)AGUMOGU 代表取締役 麓 絵里さん(富山市)

麓 絵里 (37歳)さんは、現在、富山市婦中地域で肥料や農薬を一切使わない自然栽培で、コシヒカリ、雄山錦(酒米)、もち米、古代米のほか、米粉、米麴、餅、日本酒といった加工品の販売も手掛けています。

東京の医療機器メーカーに勤務していましたが、出張先の富山で食べたおにぎりの美味しさ、そして父の病気を機に「食」の大切さを痛感、就農を決意しました。

平成29年に(株)AGUMOGUを設立し翌年富山市に移住、本格的な自然栽培による「お米作り」への純粋な思いを抱いたと言います。お米作りで「次に何を試そうか」という尽きることのない探求心と自然に溶け込んだリズムで心豊かに生活できることに喜びを感じているとの事です。

ネット販売では「子どもの頃に食べた懐かしい味」、「食物アレルギーのある子どもでも食べられた」といったお客様からの喜びの声が大きな励みとなっています。現在は、自然の力を最大限に活かす自然栽培で、量より「価値」を追求、今後はアルバイトやサポーターを含む仲間を増やし、農業に携わりたい人が気軽に参加できる「受け皿」となることを目指しています。令和7年11月には富山市の認定農業者となり、中山間地域での経営規模を4haに拡大、加工品の生産拡大やスマート農機を活用した省力化を目標としており、麓さんは「喜んでくれる人がたくさんいる。何でも生み出すチカラがあるので、農業に少しでも興味があれば、ぜひチャレンジを！」とメッセージを送っています。



写真 農業のチカラを語る麓さん

(担い手支援課 経営支援班)

農家のこだわり専門店、応援します！ ～新規開店⑩～

パワーチャージできる憩いのお店、OTENTO

令和7年8月、富山市久郷で、お米や野菜を中心としたランチを提供する農家カフェ「OTENTO」が開店しました。店主は、農家に嫁いで16年の高松梓さん。

他業種に勤務する夫とともに、数年前から少しずつDIYで作り上げたカフェは、モダンな雰囲気です。テーブルや手動の配膳リフトに至るまで手作り。

そんなカフェで提供するランチには、家で収穫した新鮮な野菜で一から手作りする小鉢が4品も付いてきます。嫁いできてから習った地域の伝統料理から、前職で覚えた創作料理まで、幅広い野菜メニューが並びます。



写真3 OTENTO ランチ

店名「OTENTO (おてんと)」の由来は、農家にとって太陽は欠かせないものであり、「OTENTO」に来ると元気が出ると言ってももらえる、お客様にとって太陽のような存在(お店)になりたいことから付けられたとのこと。見晴らしの良い2階席で、大地の恵みを頂きながら、心身共にリフレッシュしてみても如何ですか。

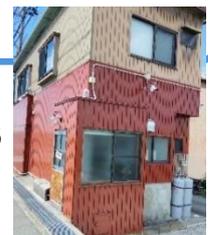


写真1 店舗外観



写真2 2階の様子

(担い手支援課 経営支援班)

トラクターの運転にはシートベルト着用が義務化に！

令和7年6月「道路運送車両の保安基準等の一部改正」により、令和9年1月1日以降に製造された乗用型トラクターについてシートベルトの装備と、道路を走行する際に運転者のシートベルト着用が義務化されます。この義務化の主な目的は、トラクターの横転や転落といった事故が発生した場合に、運転者が車体の下敷きとなることによる死亡事故を未然に防止することです。

この義務化対象車両で公道走行中にシートベルトを着用していない場合、違反点数1点が付されます。また、圃場内での農作業中はシートベルト着用の義務化の対象外ではありますが、不測の事態や万が一の事故に備え、常時着用を強く推奨いたします。

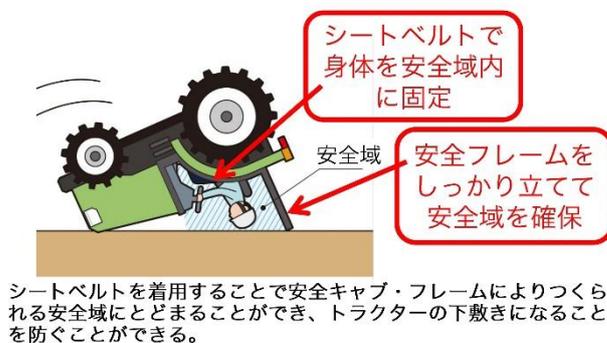
今回の義務化は新型車両を対象としたものですが、現在皆様がお持ちのトラクターについても、安全フレームやシートベルトが既に装着されている場合は、日頃から必ずこれらを着用してください。痛ましい死亡事故を減らすため、トラクターを運転する際にはシートベルトの着用を忘れずにしましょう！



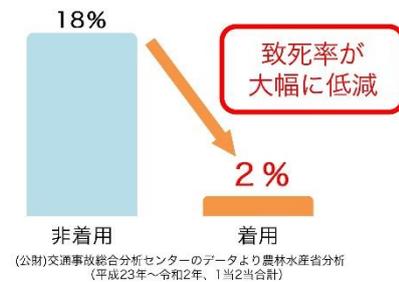
出典：農林水産省 HP「農作業安全 & 熱中症対策ステッカー」

シートベルトの効果

乗用型トラクタの路外逸脱・転倒事故における死亡・重傷リスクに対し、シートベルトを安全キャブ・フレームとセットで使うことが重要！



農耕作業用特殊車における事故時のシートベルト着用状況別致死率



参考情報

農林水産省ホームページもご覧ください。



出典：農林水産省周知チラシ「乗用型トラクターでの道路走行時におけるシートベルト義務化」

（担い手支援課 経営支援班）



秋にクマが出てからでは遅い！！
春になって雪が溶けたら・・・、
野生動物の隠れ場所やエサ場をなくそう！



昨年のツキノワグマの大量出没と人身被害発生は大きな社会問題となりました。クマが冬眠し出没がなくなると、人々の関心も一気に薄れてしまいましたが、それでは山の木の実が不作の年は、またクマが人里に現れ被害が多発することは必至です。

イノシシ等による農作物への被害も大きく、これらを防止するためには、野生動物が集落に入ってこないように、集落内及び周辺を整備することが大切です。

地域や集落で話し合い、雪が溶けたら作業にかかれるように準備をしましょう。

○隠れ場所（ヤブ・草むら等）をなくす！

ツキノワグマやイノシシは、隠れ場所から次の隠れ場所へと移動し人里に近づきます、隠れ場所に潜んだ動物は自身への危険がないか人の行動を見ています

- ・耕作放棄地や宅地内のヤブや草むらを刈払しましょう。
- ・里山林や竹林等の不用な木を伐採しましょう。
- ・家屋や納屋、倉庫等は戸締りを確実に、また外板の隙間はふさぐなど、野生動物に入り込まないように対策をしましょう。

○野生動物を引き寄せるエサ場をつくらない！！

一度人里のエサの味を覚えると、場所を記憶し翌年も現れます

- ・野菜や果樹の収穫残や、調理で出たゴミは外に放置せず、埋設しましょう。
- ・不要な柿や栗の木は伐採しましょう。動物が一度果実に執着すると実がなくなる（食べつくす）まで食べに来ます。また、場所を覚えて毎年来るようになります。

○野生動物と人間のすみ分けを考える・・・

バッファゾーン（緩衝地帯）や侵入防止柵の設置により、人間と動物の住む場所を分ける

- ・バッファゾーンには、草木を除去して見通しをよくする、またエサとなる果樹を伐採する等、野生動物が入りづらく、居づらい環境を帯状に作ることで、そこまで人里への進出をくい止める、という効果があります。侵入防止柵と組み合わせれば効果が上がります。
- ・さらに、バッファゾーンに野生動物が入ってきたら、「わな」で捕獲したり、音で追い払ったりして、危険な場所であることを学ばせることも有効な対策です。
- ・その昔、里山に多くの人が入り、人間と動物の住む場所の境界となっていた状態に戻すことは望むべくもありませんが、バッファゾーンや侵入防止柵の設置により、野生動物の行動が抑制されれば、被害の減少が期待できます。

（企画振興課）